

熊本市 感染症発生動向調査 速報



●麻しん(はしか)にご注意!!

今年に入り、熊本市で報告はありませんが、他県(山形、三重、広島等)において海外で麻しん(はしか)に感染した人が国内で発症し、地域で集団発生する例が相次いでいます。

発熱、風邪症状、皮疹等の症状が出現した場合は、麻しんによる症状の可能性があります。受診をする際には必ず事前に医療機関に連絡を行ってください。また受診の際は感染が広がらないよう、公共交通機関の利用を避けてください。

◆感染源

麻しんは伝染性の強い急性発疹性のウイルス感染症で、感染者の気道分泌物(鼻、咽頭、口腔からの飛沫、飛沫核)による空気感染、飛沫感染などにより感染します。

◆症状

潜伏期間は10～12日で、主な症状は38℃前後の発熱、咳、鼻汁、結膜充血、目脂、発疹などです。また、合併症として肺炎、脳炎などを来すこともあります。特別な治療はなく対症療法が中心となります。予防接種を1度も受けていない乳児や妊婦が発症すると重症化したり、流産する危険性があります。

◆予防方法

麻しんの一番の予防方法は予防接種です。麻しんは感染力が非常に強いため、麻しんの流行している地域に渡航する際には、麻しんに感染しないためにも、事前の予防対策が重要となります。このため、これまで予防接種を受けていない方や、1回しか接種を受けていない方には、麻しん風しん混合ワクチンの接種が勧められます。かかりつけの医師に相談してください。(接種履歴は親子(母子)健康手帳を確認してください)

※外務省海外安全ホームページ※厚生労働省FORTH参照。海外へ渡航される方は、左記サイトを確認されることをお勧めします!!

麻しん(はしか)感染症届出数

	平成29年 4/12現在	平成28年 2016年	平成27年 2015年	平成26年 2014年	平成25年 2013年	平成24年 2012年
熊本市	0	1	0	1	0	0
熊本県	0	1	0	2	0	0
全国	114	165	35	462	229	283

平成27年3月27日、WHOにより、日本が麻しんの排除状態にあることが認定されました。しかし、その後も海外からの輸入例を発端として、集団発生事例は起こっています。



期 間		平成29年 第13週		平成29年 第14週	
		3/27～4/2		4/3～4/9	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		180	7.20	107	4.28
RSウイルス感染症		4	0.25	4	0.25
咽頭結膜熱(プール熱)		7	0.44	7	0.44
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		40	2.50	33	2.06
感染性胃腸炎		56	3.50	67	4.19
水痘(みずぼうそう)		5	0.31	9	0.56
手足口病		8	0.50	4	0.25
伝染性紅斑(りんご病)		1	0.06	2	0.13
突発性発しん		7	0.44	14	0.88
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		6	0.38	4	0.25
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		5	1.00	10	2.00
細菌性髄膜炎		0	0.00	2	0.40
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		2	0.40	7	1.40